

2020
Go!Go!
 中川真依の
東京オリパラ
 東京オリンピック・
 パラリンピック開催まで
 あと **1**年 **0**か月



▲6月11日、総理大臣官邸で行われた第3回ホ
 スタウン首長会議に、和野小松市長も出席
 しました。

小松市選手団の 応援に行こう！

今月は、オリンピック・パラリンピックにも
 負けない熱い戦いが繰り広げられる「石川県民
 体育大会」についてお話ししたいと思います。

石川県民体育大会は、今年で71回目を数える
 県内最大のスポーツの祭典です。競技数はオリ
 ンピックを上回る49競技。今年は8月3日(土)と
 4日(日)に、小松市を主会場に開催されます。私の大先輩や後輩たちも小
 松市代表として、総合優勝を目指して頑張ってくれています。それに先駆
 け7月24日(水)には、こまつドーム集会室で選手団の壮行会が行われます。
 小松市代表として戦う選手たちに熱い声援を届けに行きましょう。



東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿 9カ国に

小松市では、ニュージーランド、ブラジルなど既に7カ国のカヌー・
 トランポリンの事前合宿が決定していましたが、新たにノルウェーと
 スロベニアが追加となり、全国トップクラスの9カ国になりました。1
 年余りに迫ったオリンピック・パラリンピックを皆さんで盛り上げて
 いきましょう。

問い合わせ スポーツ育成課 ☎24・8139

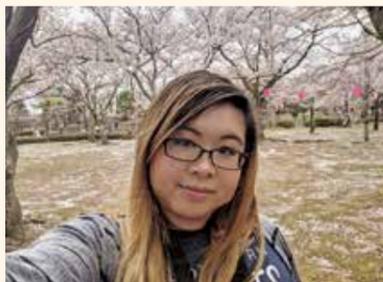
International City
**国際交流
 コーナー**
 KOMATSU

～国際交流員キンバリーのこまつ新発見～

3年間、ありがとうございました！

平成28年8月3日、小松市に到着しました。強い日差しに照らされ、とても暑く湿気の多い日だったことを覚えて
 います。小松の全てを知りたい、小松のために頑張ろうという気持ちで日本での暮らしが始まりました。最初の数
 力月は非常に楽しく、実りの多い時間でした。小松の文化と歴史に触れ、美しい寺院を訪れました。しかし、だん
 だんホームシックになり、最初は良いと思った夜中の静寂と暗闇が、シンガポールのざわざわピカピカの夜景と比
 べて切なく感じることもありました。時が過ぎるにつれ、いつの間にか、静穏な夜、雨の後の空気の匂い、星空に
 落ち着きを感じるようになりました。

そして、お旅まつりやどんどんまつり、おっしょべ祭りを始め、たくさんの体験をしました。子供歌舞伎や寺社
 など、あふれるほどの知識を身につけ、何も見ずとも自分の記憶をたどって案内できます。様々な食べ物も試し、
 美味しい蟹や日本酒、口に合わない「なめこ」も食べました。そのほか鶴川の
 洞穴を散策したり、高価なルビーロマンを食べたり、想像できなかった体験
 もたくさん。去年の大雪さえも忘れられません。そして皆さんに出会えたこ
 と。小松市国際交流協会と通訳ボランティアの皆さん、異文化理解講座で出
 会った小さい子供から大学生、仕事上で会った人など、皆さんにお会いでき
 て本当にうれしかったです。いつの間にか小松市は第二の故郷になりました。
 今月中に小松の任期を満了しますが、これからも小松の魅力を発信して
 いきます。この3年間、ありがとうございました。またいつか帰ってきます。



▲お気に入りの芦城公園

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8039

作って試して測って壊す



生産システム科学科
香川 博之 教授
 研究分野／機械工学、電気電子工学

ものづくりや開発の現場においては、そもそも困っている原因そ
 のものが分からないということが往々にしてあります。私の研究で
 は、現場で実際に稼働している装置やシステムにセンサーなど独自
 の機能を取り付け、温度や圧力などのデータ測定、解析を行い、解
 決方法を探ります。研究対象は、スキーや野球などのスポーツ用具
 の改良から、雪氷、極地工学、医療器具、林業機械など多岐に渡ります。
 中学生の頃から南極観測隊に憧れ続け、大学では機械工学と通信
 を学びました。そして、実際に第50次南極観測隊(越冬隊)として南
 極へ渡ったのが2009年、オーロラ観測担当でした。昔から何で
 も自分でやらないと気が済まない性格で、観測装置の開発から設営
 まですべて担当していました。また基地の中で何か壊れたりしたと
 きも、部品や工具がなければ、その場にある金属を使って工具から
 作ったりと、わくわくしながら直していました。同時に、機械だけ
 でない知識や経験を積むことの大切さも学びました。
 現在、南極では5カ所目となる日本の新基地の建設が進められて
 いて、私は、国立極地研究所と、雪上車やそりの改良に取り組んで
 います。大自然の厳しさにはかきまわりますが、みんなで協力して困
 難を克服していくことができるのが人間の強みとも言えます。これ
 からも積み上げてきた技術力で課題解決に貢献していきたいです。



公立小松大学 開け！研究室のとびら 生産システム科学部編

公立小松大学には、様々な専門分野の
 教員が在籍しています。どのような研究
 をしているのか紹介します。
 問い合わせ 公立小松大学 ☎23・6600



生産システム科学科
朴 亨原 助教
 研究分野／材料工学、金属材料、
 金属加工

金属材料の高度な特性を引き出す
 一口に「金属」といっても鉄と鋼、アルミ、マグネシウム、チタン
 など様々で、自動車・航空機の輸送機械、建築材料、それに電子機
 器まで、今や私たちの身の回りは金属製品であふれています。金属は、
 鋳造・塑性加工・熱処理などのプロセスを通して製品化され、その
 プロセスによって一つ一つ全く違う特性を帯びてきます。金属の持
 つ特性をいかに最大限まで高められるのか、金属を構成する元素・
 成形工程・金属組織を制御することで、新たな金属特性を引き出す
 研究に取り組んでいます。
 大学時代、自分ができること・やりたいことについて悩み続け、
 3年次に日本で環境やリサイクルに関するシンポジウムに参加した
 ことがきっかけで、「高性能な金属」に加え、「それを環境に優しいプ
 ロセスで製造しよう」と自分なりのテーマを見つけ、研究の世界に
 入りました。今でも、研究をするほど、分からないことが多くあり
 ますが、できれば金属のすべてが分かるまで勉強を続けたいと思っ
 ています。学生の皆さんにも、インターシップ・国際交流・企業
 見学など多彩な経験を通して、自分ができること、自分がやりたい
 ことを探してみたいです。その経験が自分を新たな道に運ぶモ
 チベーションになります。
 北陸はものづくり産業が盛んであり、ものづくりが大好きな私に
 はとても魅力的な地域だったので、家族3人(妻と娘)で東京から引
 越してきました。自然環境や食べ物、それに優しい人々に恵まれ
 ながら楽しく暮らしています。